



各部会の活動内容と会議の様子

【コーディネーター部会】

「学校」と「地域」との架け橋役として、現在は主に「学校（部会も含む）」からの要請を受けて「地域の方々」に支援ボランティアを募り、要請に応えています。

（二十六年十月までの実績として）

- ① 四月 新一年生の下校時付き添い、見守り（六一人）
- ② 五月 全校体力測定（十五人）
- ③ 七月 夏休み八小塾（丸付け）（十二人）
- ④ 九月 五中生徒会と児童会との連携による登校時の挨拶運動、ごみ拾いのゴミ整理（十人）などの行事支援に多くの地域ボランティアの方々に御協力、御支援を戴いています。

ボランティアを募る際の難しさもあり、組織的・系統的にできる体制を作る方法を模索しているところです。また、コーディネーター部会への要請書式、ルートなども定めてありますが、徹底されていないので再確認を行うとともに、地域の方々には一層の御協力、御支援をお願いする次第です。



【環境・緑化部会】

今年度は環境・緑化を広く捉え、芝刈りのない時に何かできないか、例えば、雑草取り・ゴミ拾い・学校の栽培委員会の協力などの検討をしていきます。

十月にグリーンサポーター便りを発行しました。



【ふれっチャ部会】

異年齢（地域の講師の方々、高校生、小学生）異学年、教員で行われるふれっチャ活動（三年生から参加）と四年生以上が参加するクラブ活動が一緒になったことで参加率が上がりました。

先生方の指導で、きちんと活動に向くようになりました。しかし単学年で構成される活動が生まれてしまい、できれば異学年での活動の中で切磋琢磨してほしい等、各学期毎に行われる反省会、先生方の声を通してよりスムーズに運営できるように改善点について話し合いがもたれました。



【健康・安全部会】

（ジャンボ機が毎年十八機墜落）『昨年の交通事故による死亡者は九千五百二十五人でした』と書くと（そんなに多くはなかったはずだ）と直感される人がいるかも知れません。マスコミで報じられた交通事故死亡者は四千三百七十三人でしたから当然です。統計上の死亡者数は事故発生から二十四時間以内に死亡した人の数であり、二十四時間経過後の死亡者は統計上は重傷扱いになっています。その内、事故発生から三十日以内に死亡した人は五千五十二人でした。（三月二十日報道）。つまり、昨年一年間の交通事故による死者数は九千五百二十五人以上ということになります。ジャンボ機が御巣鷹山に墜落したときの死者数は五百二十人でしたから、昨年の交通事故による死亡者は、十八機のジャンボ機墜落と同数であり、しかも、この数は毎年ほぼ同じです。

人口減少問題対策を考えると『ここにも着目すべきだ』と思います。



【学習支援部会】

学習支援を要請したいことについて先生へ伺いました。

- ① 一年生……算数の繰り上がり、繰り下がり
 - ② 二年生……九九テスト、まち探索
 - ③ 三年生……自転車実技講習
 - ④ 三～六年生……ドッジボール大会
 - ⑤ 五・六年生……エプロン作り・ミシンの実技指導
- 〈検討すること〉

- ① 支援の要請を誰にいつまでにするのか？
 - ② その可否はいつ頃解るのか？
 - ③ 手続きのシステムをより分かりやすくするには？
- 等のお話があり今後の検討事項がはっきりしてきました。



【広報部会】

現在「八小コミュニティ・スクールだより」が第二号まで発行されています。

今後は年三回のペースでの発行を考えています。
次号の内容としては①現在ボランティアで活動されている状況②ボランティア募集のお知らせ③地域の皆さんと接する児童の様子などを考えています。

八小ホームページからも「コミュニティだより」が閲覧できますので活用して色々な情報を発信していきたいと思えます。



【学校運営協議会の委員と第八小学校の先生方】



文部科学大臣表彰

ふれっチャ・クラブが『平成26年度文部科学省優れた「地域による学校支援活動」』として文部科学大臣表彰を受けました。12月8日に行われた表彰式には、学校運営協議会の細谷和子委員長、細谷公市委員、ふれっチャクラブ講師代表の早瀬直氏、牧校長が参加しました。ふれっチャ・クラブの活動が、今後更に活性化するよう努力していきます。

